

大阪教育大学附属池田中学校3年  
越智 晴己

みなさんはODAを知っているだろうか？ODAとは開発途上地域の開発を行う政府の国際援助の事だ。ちなみに、その財源は税金で賄われている。今まで僕が持っている税金の知識は、「国民から集めたお金を、みんなのために使うシステム」という程度だったのだが、この「みんなのために」の部分を考えさせられる出来事が今年の夏休みに起こった。

僕は、この夏、JICAの海外研修プログラムの一環でフィリピンを訪れた。その際、ODAの現場を見学する機会に恵まれた。僕が訪れたのは、EFCOS・パッシング・マリキナ川河川改修事業フェーズ4である。フィリピンのマニラは平野で大きな川が流れていて、多くの人口が集中して住んでいる。台風の多発するこの地域は常に治水上のリスクにさらされており、その課題を克服するために、日本から技術者が派遣され、フィリピンの技術者と協力して対策を進めている。フィリピン同様に水害の多い日本は、長年の経験と技術を活かして、フィリピンをサポートしている。そして、そのサポートは堤防づくりといったハード面にとどまらず、川にゴミを捨てないように地元住民に呼びかけたり、避難訓練をしたりといったソフト面にまで及んでいる。更に、日本とフィリピンの技術者の方たちは一緒にラジオ体操やバドミントンを楽しんだりと非常に仲が良いというお話も聞いた。彼らが築いているのは堤防だけではなく、フィリピンと日本の信頼関係と明るい未来なんだと僕は思った。

日本に帰国して、僕はODAについて気になり調べてみた。二〇二四年のデータによると、発展途上国への経済協力費は五千四十一億円で、全体の歳出の〇.四%を占めていた。「国内に解決すべき問題がたくさんあるのに、海外に税金を使うなんて間違っている」と言う人もいるかもしれない。しかし、ちょっと考えてみてほしい。日本は島国で資源が乏しい。しかも少子高齢化が進みこれからもどんどん働き手は減り続けるだろう。更に、戦争のない平和な日本が続くようにと願うならば、国際協力は必要不可欠ではないだろうか。発展途上国への援助を通して絆を深め、一緒に発展していった先に、日本の輝かしい未来があると僕は信じている。そして、僕たちは税金を通して、発展途上国を応援しているのだ。

僕はこの夏の体験を、できるだけ多くの人と共有したいと思っている。マニラでは、ストリートチルドレンを保護する施設も訪れ、そこでもやはり日本政府の援助、即ち税金が使われていた。「勉強できてうれしい」と語る子供たちを前に、勉強嫌いの僕は恥ずかしい気持ちになったし、「将来は国の役に立ちたい」と言う子供たちに対しては尊敬の念を抱いた。そして彼らは口々に「日本のみなさん本当にありがとう」と言っていた。僕は日本人として、とても誇らしい気持ちになった。

「みんなのために」税金は使われていた。